

都道府県・ 指定都市番号	40	都道府県・ 指定都市名	福岡県	研究課題番号・校種名	2 (5) 小中
				領域名	校種間連携
研究課題	<b>学校全体で取り組む研究課題</b> (5) 校種間の連携による教育課程の編成, 指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
指定年度	平成 28 年度～平成 29 年度				
ふりがな 学校名  (園児・児童数)	・遠賀町立遠賀中学校 (330 人) ・遠賀町立遠賀南中学校 (144 人) ・遠賀町立浅木小学校 (257 人) ・遠賀町立島門小学校 (519 人) ・遠賀町立広渡小学校 (223 人)			学校・地域の特色及び実態等 本町では, 小中学校教職員の教育観・指導観に関する共通理解を図り, 児童生徒の学力向上のため, 小中連携教育を教育政策の重点に掲げ, 取組を推進している。	
所在地 (電話番号)	〒811-4302 福岡県遠賀郡遠賀町大字今古賀 513 (093-293-1234)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.town.onga.lg.jp/manabi_asobi/mokuhyo/index.html">http://www.town.onga.lg.jp/manabi_asobi/mokuhyo/index.html</a>				
<b>研究のキーワード</b> <input type="radio"/> 学びの連続性 <input type="radio"/> 小中連携組織の機能化 <input type="radio"/> 学力の定着を図る授業づくり <input type="radio"/> 学力向上の基盤づくり					
<b>研究結果のポイント</b> <input type="radio"/> 小中連携組織の機能化では, 遠賀町小中学校連携教育協議会を中心に, 児童生徒の学力実態の調査分析・改善策の検討実施, 検証のサイクルを確立するとともに, 学力向上のための授業改善, 基盤づくり推進計画の作成・実施・検証に努めている。 <input type="radio"/> 学力の定着を図る授業づくりでは, 児童生徒が主体的・協働的な学びを通して深い学びを実感できるような学習過程を構築し, 小・中学校が同じ視点で授業改善を進めている。 <input type="radio"/> 学力向上の基盤づくりでは, 中学校での週 1 日の「ノー部活デー」を利用した小・中学校教職員合同研修会の実施, 携帯・スマホ使用に関するルールづくり, 授業の約束, 家庭学習の手引きの発行等を町全体で進めている。					

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

学びの連続性に視点を当てた小中連携による学力向上

### (2) 研究主題設定の理由

本町には, 3つの小学校と2つの中学校がある。児童生徒の学力実態は, 全国学力・学習状況調査等, 各種学力調査の結果分析から, 平均正答率等は全国と大差がないものの, 学年・学校・校種間で差が見られた。加えて, 学力の個人差が大きく, 全体として二極化の傾向も見られた。

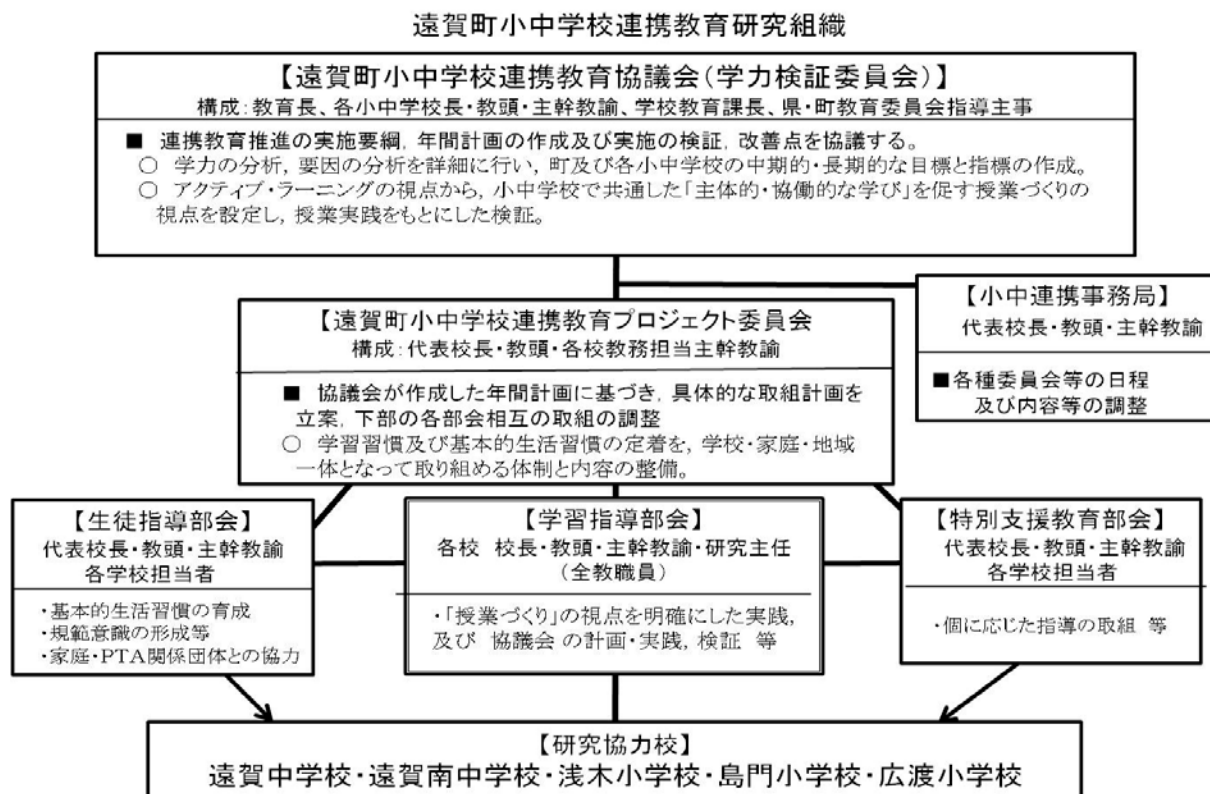
また, 児童生徒自らが解決すべき問題を発見し, 他者との対話を通して解決を図るといった, 主体的・協働的に学ぶ姿にも校種間で差が見られた。

このような状況を生み出した要因を, 小中学校教職員相互の教育観, 指導観に認識の違いがあり, 授業づくり等に関し, 共通理解に基づく共通実践の不十分さと捉えた。

そこで, 児童生徒が発達段階に応じた主体的・協働的な学び方を身に付け, 学力を高めることができるようにするための仕組みをつくって実践することが急務であると考えた。

町の教育施策の重点の一つに小中連携教育を掲げるとともに, 具体的取組の視点を「学力の定着を図る授業づくり」, それを支える「学力向上の基盤づくり」と定め, 町内全ての小・中学校が共通認識の下での共通実践を行い, 本町児童生徒の学力を向上させたいと考え, 本主題を設定した。

### (3) 研究体制



### (4) 1年間の主な取組

平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遠賀町小中学校連携プロジェクト委員会の毎月1回の開催</li> <li>○遠賀町小中学校連携教育協議会(学力検証委員会)各学期1回の開催</li> <li>○遠賀町小中合同研修会の開催</li> <li>・第1回小中合同研修会(5/12)…今年度の研究の方向性提案・共通理解</li> <li>・第2回小中合同研修会(6/16)…遠賀南中・浅木小による授業公開・協議会</li> <li>・第3回小中合同研修会(8/1)…「アクティブ・ラーニングの授業づくり」研修会</li> <li>・第4回小中合同研修会(8/5)…「特別支援学級における授業づくり」研修会</li> <li>・第5回小中合同研修会(9/9)…遠賀中授業公開・協議会、臼井調査官講話</li> <li>・第6回小中合同研修会(2/23)…今年度の総括と来年度の方向性の提案・確認</li> <li>○研究中間報告会(11/11)…遠賀中学校授業公開、分科会</li> <li>○平成28年度 国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業研究協議会(2/10)</li> </ul>
--------	--

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### 内容1：学力の定着を図る授業づくり

- 学力の分析、要因の分析を詳細に行い、町及び各小中学校の中期的・長期的な目標と指標を作成する。
- アクティブ・ラーニング(能動的な学習)の視点に基づく授業改善の在り方について共通理解を図り、小中学校で共通した授業実践を行い、検証する。

#### 内容2：学力向上の基盤づくり

- 学習習慣及び基本的生活習慣の定着を、学校・家庭・地域一体となって取り組める体制と内容を整備する。

## (2) 具体的な研究活動

### 内容1：学力の定着を図る授業づくり

- 遠賀町小中学校連携協議会（学力検証委員会）で学力検証の結果と考察をもとに学力の定着の度合いを日常的に把握できるようにし、授業改善に生かすことができる学力検証改善サイクルを町及び各小中学校で整備、構築する取組を推進した。
- 年間を通して小中合同研修会を計画的に実施し、アクティブ・ラーニングの視点を位置づけた授業づくりに関する教職員の共通理解を図るとともに、各教科等において、下図の学習過程に基づく授業研究会及び協議会を実施し、授業改善を推進した。

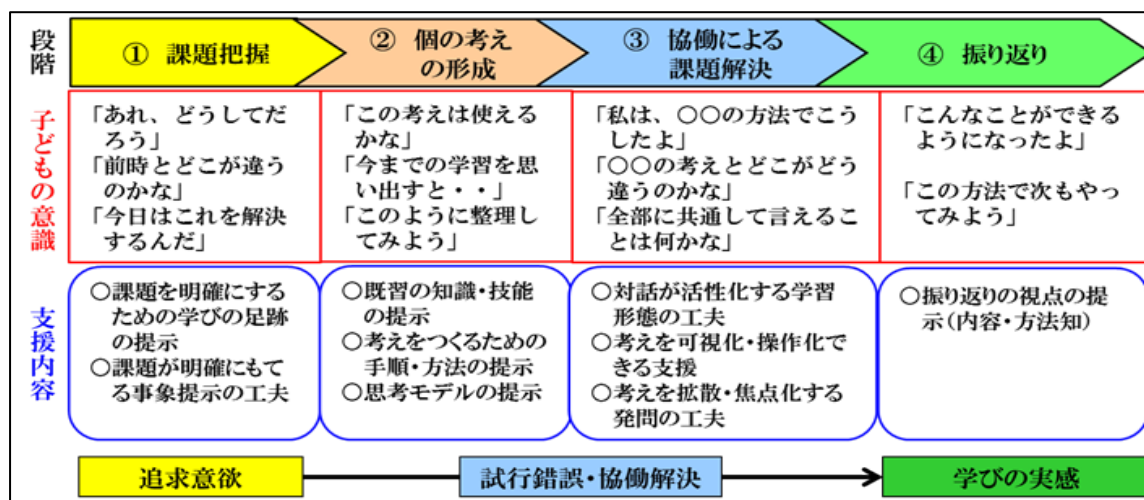


図 遠賀町版「主体的・協働的な学びを育む学習過程」



小学校体育科公開授業の様子



小中合同研修会の様子



小中連携通信（一部）

- 中学校において「ノー部活デー」を週1回実施し、その日に小中合同研修会を位置づける等、教職員の実践的指導力向上を図る機会とした。
- 定期的に「小中連携通信」を発行し、合同研修会、各部会での取組、研究の進捗状況等を各小中学校全教職員に周知徹底した。

### 内容2：学力向上の基盤づくり

- 町版「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習の仕方の指導を徹底した。
- 町内全ての小中学校とPTAが連携して、携帯・スマホの使用に関する「PTA宣言」を作成して啓発活動を行い、日常の実践につながるようにした。
- 習熟度別学習及び個別指導等により、個に応じたきめ細かな指導の充実及び朝活、帯時間、補充時間等を活用した基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る取組を充実した。

### 3 研究の結果と今後の取組

#### (1) 研究の結果

##### 【成果】

内容1：学力の定着を図る授業づくりについて

- 小中合同研修会の計画的な実施により、教職員の指導力向上とアクティブ・ラーニングの視点を位置づけた授業づくりへの共通理解を図ることができた。
- 公開授業を位置づけた小中合同研修会において、講師を招聘し、専門的な視点からの指導助言を受けることで教科・領域の本質に迫る授業の在り方について共通理解を図ることができた。
- 小・中学校が共通した学習過程に基づく授業実践を行ったことにより、学びの連続性を教職員自身が意識できるようになってきた。また、授業の検証にあたり、主体的・協働的な学びを育む手立ての有効性という視点をもとに協議することで、校種・教科・領域を越えた意見交換ができ、授業研修会がより実践的な研究会として位置付いた。
- 中学校における「ノー部活デー」を毎週1回位置付けたことで、各種研修会、委員会、部会等を計画的に開催することができ、研究内容の深化・充実・周知徹底が図られている。

内容2：学力向上の基盤づくりについて

- 町で作成した「家庭学習の手引き」「携帯・スマホのルールづくり」を全ての小・中学校で活用したことで、家庭・地域に向けて同じ視点で指導、啓発できる環境が整備できた。  
「家庭学習頑張りウィーク」の位置付けにより児童生徒の家庭学習時間の確保、学習習慣の形成が図られつつある。
- 「携帯・スマホの使い方」についてのアンケート調査と考察を学期1回実施したことで、児童生徒の現状把握だけでなく、保護者への啓発も町全体として確実に行えるようになった。
- 「授業の7つ約束」を作成し、各小中学校で実践することで「授業への構え」が統一的に指導できるようになった。また、達成状況のアンケート調査を実施したことで、児童生徒の主体的な学習態度の形成が図られつつある。

##### 【課題】

内容1：学力の定着を図る授業づくりについて

- 発達段階に応じた学び方の視点から、主体的・協働的な学びの定義を明らかにし、「学びの連続性」についての捉え方を再考する必要がある。
- 1単位時間や単元という枠組みの中での児童生徒の課題意識の連続という視点からの「学びの連続性」についての捉え方を再考する必要がある。

内容2：学力向上の基盤づくり

- 児童生徒の各種の手引き等活用状況及び効果と教師の指導状況に関する相関を検証し、指導改善の方途を明らかにする必要がある。

#### (2) 今後の取組

- 「学びの連続性」の意味づけの再考及びそれを生かした各教科等の特質に応じた授業実践
- 各種の手引きや約束等の活用促進及び活用の効果の検証